

「地震の確度の高い予知は困難」の報道に接して

今朝の朝刊で政府の有識者会議が、現在の科学的知見からは南海トラフト地震の確度の高い予知は困難であることを認め、備えの重要性を指摘する最終報告書をまとめたとの報道が載っていた。

この報道に接し、「やはり…、さもありなん！」と思った。

2011. 3. 11の大震災後、ここ1, 2年、しきりと南海トラフト巨大地震が起こる可能性の-highいことが報道され、その被害を想定したシュミレーション番組もよく目にしていたが、3. 11の大震災を予知できなかった専門家が、僅かここ1, 2年で南海トラフト地震の予知が出来るようになったとは思えなかったのが、今朝の記事を見て「さもありなん！」と思った訳。

所詮、日本は地震大国だけに、数百年に一度というような大震災は歴史的文献や地質調査等の知見で予想出来ると思うが、予知のしようはないと思う。

地球上の大陸は、元は「パンゲア」という一つの大陸が地球中心部のマグマの動きで分離・移動したようで、地球の各大陸は、元あったパンゲアのように戻ろうとしているとか。

その証かも知れないが、ヒマラヤ山脈とてインド大陸とユーラシア大陸がぶつかって出来た産物のようなだし、ハワイを乗せた太平洋プレートは、北西に向かって1年に8～9 cm移動しており、最終的には日本海溝に沈み込んでいくとか。

また、我々の小学校時代は、死火山と呼称する山があったが、今は休火山というようになっている。この事とていつどこでマグマが再噴火するか分からないから「休火山」と呼称するようになったと思う。

宇宙の地球という星の上で生きてる限り、大震災は、いつ、どこで起こるかは予知できないので被害に遭うかも知れないことを覚悟の上で、その被害を減少させるための対策等を準備しておくことが大事ということだろう。

さて、専門家会議は被災時に支援が動き出すまでの自活する備えとして食料、水等々の一週間分以上を備蓄することを求めているが、例えば、一人の最低限の3リットル/日の水分だけで、3リットル×7日×家族人数分となり、これだけの水を保管するスペースに余裕ある家はどれほどあるのかなあ。